

第6学年 社会科学習指導案

日 時 平成29年6月6日(金) 第6校時
14:25～15:10

対 象 第6学年1組 30名

学校名 世田谷区立経堂小学校

授業者 主任教諭 佐藤 智彦

1 小単元名 「今につながる室町文化」 (5時間)

2 小単元に目標と観点別評価規準

(1) 小単元の目標

京都の室町に幕府が置かれたころの代表的な建造物や絵画とそれにかかわる人物の働きを通して、現在の生活文化に直結する要素をもつ室町文化が武士の中から生まれ、それぞれが全国へ広がり、今も人々に親しまれていることを理解するとともに、それらの文化と自分達との関りについて考えることができる。

(2) 小単元の観点別評価規準

評価の観点	評価規準	学習過程の どこで
社会的事象についての 関心・意欲・態度	①京都の室町に幕府が置かれたころの代表的な建造物や絵画とそれらにかかわる人物の働きに関心をもち、すすんで調べようとしている。 ②京都の室町に幕府が置かれたころの文化や文化遺産を大切にしようとしている。	調べる まとめる
社会的な 思考・判断・表現	①京都の室町に幕府が置かれたころの代表的な建造物や絵画とそれらに関わる人物について、学習問題や予想、学習計画を考え表現している。 ②今日の生活文化に関係する要素を多くもつ室町文化が武士や民衆の中から生まれ、今も多くの人々に親しまれたていることや、それに関わる人物の働きについて考えたことを表現している。	つかむ まとめる
観察・資料活用の 技能	①京都の室町に幕府が置かれたころの代表的な建造物や絵画とそれらに関わる人物について、各種資料を活用して、必要な情報を集めて読み取り、まとめている。	調べる
社会的事象についての 知識・理解	①今日の生活文化に関係する要素を多くもつ室町文化が武士や民衆の中から生まれ、今も多くの人々に親しまれたていることが分かっている。	まとめる

3 小単元について

(1) 学習指導要領との関連

本小単元は学習指導要領の次の内容を受けて設定した。

(1) 我が国の歴史上の主な事象について、人物の働きや代表的な文化遺産を中心に遺跡や文化財、資料などを活用して調べ、歴史を学ぶ意味を考えるとともに、自分たちの生活の歴史的背景、我が国の歴史や先人の働きについて理解と関心を深めるようにする。

エ 京都の室町に幕府が置かれたころの代表的な建造物や絵画について調べ、室町文化が生まれたことが分かること。

本小単元では、京都の室町に幕府が置かれたころの文化のうち、代表的な建造物や絵画を取り上げて、具体的に調べる活動を通して室町文化が生まれたことが分かるようにする。代表的な建造物として、足利

義満が建てた金閣、足利義政が建てた銀閣を取り上げ、代表的な絵画としては雪舟によって描かれた水墨画を取り上げる。これらの建造物、絵画などを調べることを通して、今日の生活に直結する要素をもつ室町文化がこの時代に生まれたことが分かるようにする。

(2) 教材について

本小単元で取り上げる主な教材は「金閣・銀閣・東求堂同仁齋（書院造）」「水墨画・茶の湯・生け花」「田楽・猿楽と能・狂言」「祇園祭と盆踊り」の4つである。教材の特徴として以下のことを考えた。

①金閣・銀閣・東求堂同仁齋（書院造）

足利義満によって建てられた金閣は、3層で構成され、1層目は寝殿造り、2層目は書院造、3層目は禅宗様式で造られ、金箔が張られている。足利義政の建てた銀閣は、2層で構成され、1層は書院造、2層は禅宗様式で建てられている。「武士や貴族などの文化である様々な様式が取り入れられていること」を取り上げることを通して、「これまでの文化が混ざり合いながら新たな室町文化が生まれてきたこと」を捉えられるようにする。また、東求堂同仁齋（書院造）は、畳や違い棚、障子など「現在の和室につながる要素が多いこと」を取り上げることを通して、「室町文化が今につながる文化であること」を捉えられるようにする。

②水墨画・茶の湯・生け花

水墨画は、鎌倉時代に中国から伝わり、雪舟が日本風の様式にして大成させた。茶の湯は、武士や貴族の間で静かに茶を楽しむようになり、心静かに楽しむ茶の湯の作法が定まっていた。同じく生け花も、書院造の床の間を飾るものとして盛んになっていった。「水墨画や茶の湯、生け花が、この時代に生まれたこと」を取り上げることを通して、「これらの文化を武士や貴族が親しんでいたこと」「今も現代の人が親しんでいること」を捉えられるようにする。

③田楽・猿楽と能・狂言

当時、農村では農民たちの力が高まり、田楽は、地域の祭りや盆踊りなどが盛んにおこなわれるようになった。その中から豊作を祈って踊られた田楽や、祭りの時に演じられていた猿楽は、やがて、能や狂言へ発展していった。「生活の中から文化が生まれてきたこと」を取り上げることを通して、「武士や貴族だけではなく、民衆にも文化が広まっていったこと」を捉えられるようにした。

④祇園祭と盆踊り

祇園祭は、平安時代に京都で始まり、室町時代に現在の形となった。盆踊りは、当時の小唄に合わせて踊りながら練り歩く風流踊りと、鉦（かね）・太鼓を合わせて念仏を唱えて踊る念仏踊りと融合し、現在の盆踊りとなったとされる。祇園祭や盆踊りが「日本全国で、祇園祭や盆踊りが現在も行われていること」を取りあげることを通して、「京都で生まれた文化が、文化の担い手によって全国へ広められたこと」を捉えられるようにする。

(3) 児童の実態について

省略

4 目指す児童像と教材の構造図

目標の分析	目指す子供像	室町時代に生まれた代表的な建造物や絵画、生活文化などについての確かな理解をもとに、自分と今につながる室町文化との関わりや広がり、様々な立場の人々が親しんでいたことについて考え、日本の文化を大切にしようとする子供				
	学習指導要領	<p>第6 学年内容（1）</p> <p>我が国の歴史上の主な事象について、人物の働きや代表的な文化遺産を中心に遺跡や文化財、資料などを活用して調べ、歴史を学ぶ意味を考えるようにするとともに、自分たちの生活の歴史的背景、我が国の歴史や先人の働きについて理解と関心を深めるようにする。</p> <p>エ 京都の室町に幕府が置かれたころの代表的な建造物や絵画について調べ、室町文化が生まれたことが分かること。</p>				
問いの構造	概念	京都の室町に幕府が置かれたころ、今日的生活文化につながる室町文化が生まれ、武士や貴族から民衆に広まり、今も多くの人に親しまれている。				
	学習問題と問い	<p>問い</p> <p>今につながる室町文化とわたしたちはどのように関わっていけばよいのだろうか。【国民生活との関連】</p>				
		<p>学習問題</p> <p>室町文化には、どのような特徴があり、どのような人たちに親しまれているのだろうか。</p>				
		<p>問い</p> <p>水墨画、生け花、茶の湯は、どのような特徴があるのだろうか。【文化の特徴】</p>	<p>問い</p> <p>なぜ京都で生まれた祇園祭が、今も全国各地に存在しているのだろうか。【文化の広がり】</p>	<p>問い</p> <p>能や狂言はどのように生まれたのだろうか。【文化の起源】</p>		
知識と教材の分析	概念	室町文化は、今日的生活文化につながり、今も多くの人に親しまれている。	室町文化は、室町時代に生まれ、武士や貴族から民衆に広まり、様々な人たちに親しまれていた。			
	具体的知識	<p>武士や貴族の間で茶の湯や書院造の床の間を飾る生け花や水墨画が盛んになり、今も多くの人に親しまれている。</p> <p>室町で生まれた祇園祭は、応仁の乱後多くの文化人が地方の都市へ行き、全国へと広まり様々な人に親しまれてきた。</p>	<p>室町に幕府が置かれたころ金閣や銀閣などの建造物がつくられ、世界遺産となっている。</p> <p>銀閣のとなりの東求堂には現在の和室の原型となった書院造がある。</p> <p>民衆の間には祭りや盆踊りが盛んに行われ、その中の田楽や猿楽から能や狂言が生まれ、庶民に親しまれるようになっていった。</p>			
	資料	<ul style="list-style-type: none"> 茶の湯と生け花の特徴 水墨画の特徴と雪舟 <p>(文章と写真)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 祇園祭が起源の全国の祭り(地図) 応仁の乱の様子 <p>(文章資料)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 金閣と銀閣の構造 <p>(文章資料)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 東求堂同仁齋の書院造 <p>(写真)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 能や狂言の起源(田楽と猿楽)と特徴 <p>(文章資料)</p>

5 研究主題との関連

よりよい社会の形成に参画する資質・能力の基礎を培う社会科教育
 ～社会的事象の見方・考え方を働かせ、社会認識を深める学習を通して～

○本小単元での6年部会研究主題の捉えと目指す児童像

本部会では、全体研究主題である「よりよい社会の形成に参画する資質・能力の基礎を培う社会科教育」を受け、6年部会の研究主題を「よりよい社会をつくろうとする子供の育成」とした。特に今年度から変更された副主題「社会的事象の見方・考え方を働かせ、社会認識を深める学習を通して」を踏まえ、6年部会の副主題を「社会的事象の見方・考え方を働かせながら、自分と社会（政治・歴史・世界）とのつながりを見つめ、生活に生かそうとする子供を育てる授業の工夫」とした。

本小単元では、6年部会研究主題を次のように捉えた。

①社会的事象に見方・考え方を働かせる。

「社会的事象の見方・考え方を働かせる」とは、「水墨画・茶の湯・生け花の特徴」「能や狂言の起源」「盆踊りや祭りの広がり」から、「室町文化が生まれそれが様々な人たちに親しまれていた」という『社会的事象や様々な立場の人々の相互関係の視点』を働かせること、また、「その生活文化が全国に広まった」という『位置や空間的な広がりに関する視点』を働かせること、それが「今も現代の人々に親しまれている」という『時期や空間の経過に関する視点』を働かせている姿と捉えた。

②自分と社会のつながりを見つめ、生活に生かそうとする。

「室町文化の今日へのつながり」から、自分と室町文化のつながりや国民生活と関連させながら考え、今日につながる室町文化と自分達との関わりを考えている姿と捉えた。

○本小単元での手だて

- (1) 社会生活についての理解を深め、社会との関わりを見つめ直す教材
 - ・自分と社会とのつながりが捉えられる教材
 - ・多角的な解釈ができる教材
- (2) 社会的事象の見方・考え方（追究の視点と方法）を働かせる指導の工夫
 - ・社会的事象の見方・考え方を生かした「問い」設定
 - ・学習問題の解決への見通しと学びの振り返りを重視して、社会生活についての理解を深める学習活動の工夫
 - ・問題解決的な中で、対話的に学び多角的に考える学習活動の工夫

学習過程に即した研究の手立てを以下のように設定して目指す児童像に迫ろうと考えた。

	目指す子供像の具体的な姿と見取りの方法	見方・考え方を働かせる「問い」	教材の工夫	学習活動などの導法の工夫
つかむ	〈目指す子供像〉 ・今も残る室町文化の特徴をこれまでの学習内容を活用して、誰がどのような文化に親しんでいるのか問題意識を高め、学習問題を設定し、予想を立てている。	・室町時代の文化を平安・鎌倉の文化と比べてみよう。 【関係的】 ・室町文化は誰が親しんでいるのでしょうか。【関係的】	○様々な立場から多角的に考えられる教材 「田楽・祇園祭」 ⇒武士・貴族・僧・民衆などの人々の文化へのかかわりを捉えられる教材	○対話的に学び多角的に考えるための工夫 ・年表を基に書き出した予想をグループで話し合いながら、問いを設定し、学習計画を立てる。
しらすべ	〈目指す子供像〉 室町時代に生まれた文化が、武士や貴族、民衆に親しまれていた。	・水墨画、茶の湯・生け花は、どのような特徴があるのだろうか。	○自分と社会とのつながりが捉えられる教材 ・「5年生の時の茶道体験の写真」	○学びの振り返りから、社会認識を深める工夫 ・一人一人の作成した年表に書かれた予想を見

	<p>また、その生活文化が全国へ広まり、今も現代の人々に親しまれていることを確かな理解をしている。</p>	<p>【関係的】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・能や狂言はどのように生まれたのだろうか。 <p>【関係的】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なぜ京都で生まれたで室町文化が全国に広がったのだろうか。 <p>【空間的】</p>	<p>⇒現代と室町文化のつながりが見える教材</p> <p>○様々な立場から多角的に考えられる教材</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「田楽・猿楽」から「能や狂言」が生まれた。 <p>⇒民衆の生活から生まれた文化もあり、多くの民衆に親しまれていたことが時間的に捉えられる教材</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「祇園祭や盆踊りの全国への普及」 <p>⇒京都から全国へ広がり親しまれるようになった室町文化を空間的にとらえられる教材</p>	<p>ながら、一時間ごとに学習した内容を踏まえ、ここまでの学習問題に対する振り返りをまとめる。</p> <p>○問題解決的な中で対話的に学ぶための工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調べた事実を基に、問いに対する考えをグループやクラス全体で話し合うことで、自分の考えを深めていく。
<p>まとめ</p>	<p>〈目指す児童像〉</p> <p>武士や貴族、民衆などの立場から今につながる生活文化について考えることを通して、自分達とのかかわりを考えようとしている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今につながる室町文化とわたしたちはどのように関わっていけばよいのだろうか。 <p>【関係的】</p>	<p>○自分と社会とのつながりが捉えられる教材</p> <ul style="list-style-type: none"> ・室町文化を親しんでいた様々な立場と自分たちの関連図 <p>⇒様々な立場に自分たちを加えることで、自分と社会とのつながりを考え、参画意識を高める教材。</p>	<p>○対話的に学び多角的に考える工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・貴族や武士、民衆のそれぞれの立場からどのように楽しんでいたか考え、自分たちも今につながる文化とどのように関わっていけるかを多角的に考える。

(3) 児童に育成させる資質・能力の評価方法の工夫

①互いのよさを認め合う評価の工夫（話し合いの見取り表の活用）

グループでの話し合いは、3～4人で行い、話し合った内容をホワイトボードに整理させていく。書き消しが繰り返しできることや考えを書き留めて置けることで、話し合いが可視化させ内容の質が高まっていくと考えた。また教師は、話し合いの見取り表（話し合いにおいて児童の発言を順に記録する表）を使うことで、話し合いの過程を把握したり、内容を確認したりし、形成的な評価をしていく。

②振り返りの工夫

振り返りの工夫として、学習計画を立てる際に活用した年表に記録していく。振り返りを書く際には、学習問題を振り返らせ、学習問題に対する自分予想が書かれた年表に毎時間記録していく。学習問題を振り返ることで、今日の学習がどこまで解決したかを振り返ることができると考えた。また、年表に書かれた自分の予想を確認しながら書くことで、自らの考えの変容にも気付けると考えた。

6 小単元の指導計画と評価計画 (5時間扱い)

過程	ねらい (数字は時数)	○主な学習活動 問問い ・予想される児童の反応	教師の指導・支援 (□留意点◎資料◇評価)
つかむ	<p>①室町文化に関心を持ち、学習問題を設定し予想をすることができる。</p>	<p>○平安時代と鎌倉時代の文化を振り返り、本時のめあてを設定する。 ・平安時代は、貴族の文化で日本独自の華やかな国風文化 ・鎌倉時代は。武士が中心で力強い文化</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>室町時代の文化について調べ、学習問題をつくり予想をし、学習計画を立てよう。</p> </div> <p>○金閣・銀閣・東求堂同仁齋の書院造について調べる。 ・金閣は武士と貴族と禅宗の形式。足利義満によって造られた。 ・銀閣は武士と禅宗の形式。足利義政によって造られた。 ・書院造は、現在の和室に似ている。</p> <div style="border: 3px double black; padding: 5px;"> <p>室町文化には、どのような特徴があり、誰に親しまれているのだろうか。</p> </div> <p>○室町文化がどのような文化なのか予想をする。 ・貴族と武士の華やかさと力強さを合わせた文化なのではないか。 ・貴族や武士ではなくて、農民にも楽しむようになった。 ○予想を基に、学習計画を立てる。 ・水墨画や茶の湯、生け花は、どのような特徴があるのだろうか。 ・狂言や能の文化は、どのように生まれたのだろうか。 ・なぜ京都で生まれたで室町文化が全国に広がったのだろうか。</p>	<p>◎大和絵・紫式部 (写真) ◎金剛力士像・源頼朝像 (写真) □それぞれの文化の担い手に着目させる。</p> <p>□場所 (京都) と時代 (室町時代) を地図と年表で確認する。 ◎金閣・銀閣 (写真と文章資料) ◎田楽・風流踊りの様子 (写真) □武士だけではなく、様々な人がいることや、楽しそうな様子に着目させる。 ◎東求堂同仁齋 (写真) □同人齋から現代の和室に似ていることに着目させる。 ◎室町時代の主な出来事 (年表) □年表に書かれていることを根拠に予想をし、グループで話し合いながら整理させる。</p> <p>◇京都の室町に幕府が置かれたころの代表的な建造物や絵画とそれらに関わる人物について、学習問題や予想、学習計画を考え表現している。</p>

調べる	<p>②現代まで続く水墨画、生け花・茶の湯について調べる。</p>	<p>○書院造の様子を基に、本時のめあてをつかみ予想を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・床の間には、お花が飾られている ・掛け軸が飾ってある。 ・畳があるから、お茶をしているはないか。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 水墨画、生け花、茶の湯は、どのような特徴があるのだろうか。 </div> <p>○水墨画、生け花、茶の湯について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水墨画は、雪舟が中国から入ってきた技法を日本風の様式にして完成させ、多くの作品を生み出した。 ・茶を飲む習慣が広まり茶室で心静かに茶を楽しむ茶の湯の作法が定まっていた。 ・書院造の床の間を飾る生け花が盛んになった。 <p>○調べたことを基に、現在まで続いている理由を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本に合わせた文化にしていったから。 ・心静かに茶を楽しむことが日本人に合っていたから。 ・受け継いでいく人がいたから。 	<p>◎書院造</p> <p>□書院造りを手掛かりに、水墨画や生け花、茶の湯に着目させる。</p> <p>◎水墨画と雪舟の業績（文章資料）</p> <p>◎生け花、茶の湯の成り立ち（文章資料）</p> <p>◎児童の茶の湯の様子（写真）</p> <p>□調べたことを根拠にしなが ら、現代も親しまれている理由を話し合わせる。</p> <p>◇室町時代の墨絵と雪舟、生け花・茶の湯に関心を持ち、すすんで調べようとしている。（ノート）</p>
調べる	<p>③当時の人々の暮らしの中にある田楽や猿楽能や狂言が生まれたことを調べる。</p>	<p>○能や狂言の様子から、本時のめあてをつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・田植えの横で踊りを踊っている。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 狂言や能は、どのように生まれたのだろうか。 </div> <p>○当時の人々の生活の様子と能や狂言への発展について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業や工業、商業が発展し、民衆が力を付けてきた。 ・田植えの時に豊作を祈って踊られた田楽や祭りの時に演じられた猿楽から、能や狂言が生まれた。 ・能は、室町時代に義満の保護を受け完成した。 ・狂言は、当時の日常の言葉を使い滑稽な動作やせりふで人々を楽しませた。 <p>○能や狂言などの文化に対する貴族や武士、民衆の思いを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・貴族だけで楽しんでいただけで民衆の文化も楽しそうだ。 ・武士は、民衆から生まれた文化を保護して自分達も楽しみたい。 ・民衆は、武士や貴族だけではなく、民衆の文化が増え楽しみながら生活していた。 	<p>◎能と狂言（動画）</p> <p>◎田楽や猿楽（写真）</p> <p>◎当時の人々の生活（文章資料）</p> <p>◎田楽や猿楽から発展した能や狂言（文章資料）</p> <p>□庶民の生活の中から生まれたことに着目させる。</p> <p>◇室町時代の当時の農村の様子や能や狂言に関心を持ち、すすんで調べようとしている。（ノート）</p>

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">調べる</p>	<p>④ 京都で生まれた祇園祭について調べ、祇園祭の影響を受けたお祭りが全国各地へ広まっていたことを理解する。 (本時)</p>	<p>○ 室町時代に生まれた祭りを現代と比べ、その広がりから本時のめあてをつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 祇園祭が京都で生まれ、今も残っている。 ・ 祇園祭とつく祭りが全国各地に存在する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>なぜ京都で生まれた祇園祭が、今も全国各地に存在しているのだろうか。</p> </div> <p>○ 祇園祭や当時の様子を調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 応仁の乱で京都が焼かれ、貴族や僧侶が地方の大名や寺院を頼り都を離れていった。 ・ 民衆の中からも新しい文化が生まれた。 ・ 祭りには思いや願いが込められていた。 ・ 多くの人々の努力によって守られてきた。 <p>○ 祇園祭が全国各地に存在する理由を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 応仁の乱で、多くの文化人が地方へと散っていき祭りを伝えたから。 ・ 様々な人々に親しまれ全国に広まったから。 ・ 集団で楽しめるようになったため。 ・ 祇園祭には願いが込められ、それが地方の人の同じ願いをもっていたため。 ・ 多くの人々の努力によって、今まで伝えられてきたから。 	<p>◎ 『祇園祭礼図屏風』(写真) 成田祇園祭 (VTR)</p> <p>◎ 全国の祇園祭の分布(地図)</p> <p>※ 祇園祭の名の付くお祭りが全国各地に存在することに着目させる。</p> <p>□ 室町文化の地方への普及(文章資料)</p> <p>※ 社会的な背景や政治的な背景に着目させる。</p> <p>◇ 祇園祭について調べ、祇園祭が全国各地に広がっていったことを理解する。(ノート)</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">まとめる</p>	<p>④ 今日の生活文化に関する要素を多くもつ室町文化が生まれ、現在の生活文化につながっていることを理解する。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>調べたことを整理し、学習問題に対する考えをまとめよう。</p> </div> <p>○ 年表を基に学習問題と予想を振り返り、調べたことを整理する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 金閣や銀閣 ・ 水墨画、茶の湯や生け花 ・ 能や狂言と田楽や猿楽 ・ 様々な立場の人が楽しむようになった。 ・ 今につながる文化が生まれ、全国に広がっていた。 ・ 室町文化は、現在の人々のにも親しまれている。 <p>○ 学習問題に対する考えをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 室町文化は_____。 なぜなら～～～。 <p>(例) 室町文化は、今につながる文化が生まれた。なぜなら、貴族、武士、民衆など様々な人々に親しまれ、日本各地へ広がり、今なお多くの人たちに親しまれているから。</p> <p>○ 現代につながる室町文化に対する思いを考え、学習感想を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 世界遺産無形文化財、ユネスコ文化遺産に登録されているものが多い。 ・ こんなにも長く続いている文化を私たちは大切にしていきたい。 ・ 日本の文化が素晴らしいと改めて感じた。 	<p>◎ 児童のノート</p> <p>□ 文型を示し、考えを明確にしながら話し合えるようにする。</p> <p>◇ 今日の生活文化に関する要素を多くもつ室町文化が武士や民衆の中から生まれ、今も多くの人々に親しまれたということや、それに関わる人物の働きについて考えたことを表現している。(ノート)</p>

7 本時の指導（4／5時）

(1) 本時のねらい

京都で生まれた祇園祭について調べ、祇園祭の影響を受けたお祭りが全国各地へ広まっていったことを理解する。

(2) 本時の展開

○主な学習活動 ・予想される児童の反応	□資料 ※指導上の留意点 ◇評価
<p>○室町時代に生まれた祭りを現代と比べ、その広がりから本時のめあてをつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・祇園祭が京都で生まれ、今も残っている。 ・京都の祇園祭と千葉の成田祇園祭が似ている。 ・祇園祭とつく祭りが全国各地に存在する。 	<p>□『祇園祭礼図屏風』と現在の祇園祭（写真）</p> <p>□成田祇園祭（VTR）</p> <p>□全国の祇園祭の分布（地図）</p> <p>※祇園祭の名の付くお祭りが全国各地に存在することに注目させる。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">なぜ京都で生まれた祇園祭が、今も全国各地に存在しているのだろうか。</div>	
<p>○本時のめあてに対して、予想をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国に祇園祭が広まっていったから。 ・民衆も楽しめる文化だったから。 <p>○祇園祭や当時の様子を調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・応仁の乱で京都が焼かれ、貴族や僧侶が地方の大名や寺院を頼り都を離れていった。 ・民衆の中からも新しい文化が生まれた。 ・農業や工業などが発展し、民衆が力をつけてきた。 ・祭りには思いや願いが込められ、みんなで楽しんでいた。 ・多くの人々の努力によって守られてきた、現在はユネスコ無形文化遺産に登録されている。 <p>○祇園祭の全国各地に存在する理由を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・応仁の乱で、多くの文化人が地方へと散っていき祭りを伝えたから。 ・様々な人々に親しまれ全国に広まったから。 ・集団で楽しめるようになったため。 ・祇園祭には願いが込められ、それが地方の人の同じ願いをもっていたため。 ・多くの人々の努力によって、今まで伝えられてきたから。 <p>○話し合ったことを基に、まとめを書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・祇園祭は、_____。 <p>○学習感想を書く。</p>	<p>○室町文化の地方への普及（文章資料）</p> <p>※社会的な背景や政治的な背景に着目させる。</p> <p>※個人で自分の考えを書き、グループからクラスで話し合う。</p> <p>※ホワイトボードを使いながら、資料を根拠に、全国へ広がった理由について話し合わせる。</p> <p>◇祇園祭について調べ、祇園祭が全国各地に広がっていったことを理解する。（ノート）</p> <p>※学習問題を振り返り、自分の予想を確認しながら年表に学習感想を書かせる。</p>

7 板書計画

<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">なぜ京都で生まれた祇園祭が、全国各地に存在しているのだろうか。</div>		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">予想</div> <ul style="list-style-type: none"> ・全国に広がっていったから。 ・民衆も楽しめる文化だったから。 		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">考えたこと</div> <ul style="list-style-type: none"> ・応仁の乱で、多くの文化人が地方へと散っていき祭りを伝えたから。 ・様々な人々が楽しめる文化で全国に広まったから。 ・祇園祭には願いが込められ、地方の人たちも同じ願いをもっていたため。 ・多くの人々の努力によって、今まで伝えられてきたから。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">室町時代の祇園祭（写真）</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">現在の祇園祭（写真）</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">祇園祭や祭りの分布（地図）</div>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin-left: auto; margin-right: auto;">まとめ</div> <p style="text-align: center;">例) 祇園祭は、京都を離れた武士や貴族日本各地で広め、民衆も楽しむことのできる文化だったから全国に存在している。</p>		